

2013 年度 ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏	がな 名 いながき 稲垣 しょう 翔
(研究テーマ名) 中世後期における守護権力の統治構造と地域社会	
(研究活動実績) 本年度は、中世後期（主に 15～16 世紀）を対象に、中央政府（室町幕府・朝廷）と、地域社会とを結節する存在である守護権力が、管轄地域において実施した統治の構造を明らかにした。その際、統治の客体となった地域社会と、守護権力との相互関係によって形成される秩序の解明を重視して分析を進めた。分析素材としては、当該期の有力守護である山名氏のもとに形成された権力体（山名氏権力）を取り上げた。 具体的な内容としては、①播磨国矢野荘で 1440～60 年に守護権力が行なった警察権の行使と、それに対して地域住民が行なった訴訟などの抵抗運動を分析することで、守護権力と中間層（荘官、名主：地域社会の主導的階層）の関係を解明した。②日光坊（但馬国養父郡）に対する軽減税率の適用可否をめぐる事例、および伊和神社（播磨国宍粟郡）の改修工事の事例を分析することで、守護権力と宗教勢力の関係を解明した。③瀬戸内海沿岸の港町（坂越、鞆など）と水運に着目することで、守護権力と地域流通の関係を解明しようと試みた。④嘉吉の乱（1441 年）や応仁の乱（1467 年）といった戦時下での守護権力の軍事行動の事例を分析することで、平時における統治組織が戦時における単位軍団に流用・転化されていく実態を分析した。 以上の研究成果は上がったが、学会発表や論文作成に結びつけることができなかったので、早急に実現する方向で研究を継続したい。	